

平成 30 年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人 高田福祉会	代表者	小菅 貞一	法人・事業所の特徴	平成 20 年 6 月に併設するサテライト型特別養護老人ホーム笛吹の里とともに開設された「のんびりと穏やかな雰囲気」の事業所です。地域交流が広がり恒例となった夏の納涼祭には毎年たくさんの方から参加いただき、多世代間交流の場となっています。法人理念は「笑顔あふれる毎日」。利用される方それぞれの「その人らしい暮らし」「～したい」が少しでも実現できるように、本人の思いを大切にして、家族や地域の理解や協力をいただきながら「訪問」「通い」「泊まり」を組み合わせた柔軟な介護サービスの提供で地域での暮らしをサポートします。
事業所名	ケアホーム笛吹の里	管理者	瀬下 善人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	人	4人	1人	1人	1人	人	4人	人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①利用者の意向、価値観に基づいた支援の実施。②家族や地域と協働した支援の実施。③職員の「学び」を促し、介護職としての自覚を持って、質の向上を目指す。④互いに相手のことを思いやり、人との関わりを楽しむ。	別紙、事業所自己評価を参照下さい。	◆利用者個々の価値観に差があり、利用者全体の 70%以上が満足していればいいのではないかと。◆前向きに取り組んでいると思います。できていないことも明確ですので今後の課題として捉えていると思います。◆利用者、家族に早く対応する姿が見られる。利用者の思い「何がしたい」のかに取り組んでいる。他利用者とのコミュニケーションが図られるように取り組んでいる。写真等で目で見るのは一番わかりやすいと思う。◆皆さん一生懸命に取り組んでいらっしゃると思います。「利用者さん個々の支援は大変なことだと思いますので、少しでも満足していただくように改善していただきたい。利用者アンケートを参考にして改善されればと思います。◆新規利用者に対して多くの項目での丁寧な説明、主に家族から寄せられる苦情に対する適切な対応、権利擁護の研修受講とその実践等すべてにわたって前回の課題をクリアしていこうとする前向きな姿勢とその努力をうかがいしていることができた。◆自己評価であまりできていない人はなんとかできていく人が具体的にどうやってできたのか話を聞いて参考にしたらよいと思う。	①その人の望む暮らしやそれを支援する為の情報がしっかりと共有できる。②利用者の価値観を深く理解し、それに沿った意思決定支援ができる。③目標達成に向けてケアの方向性を統一した上で、各職員が得意な分野を活かした多様な関わりを提供する。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設を利用する人が快適に過ごせるよう設備点検を実施し、環境整備に努め、居心地の良い雰囲気づくりに取り組む。	施設開設から 10 年が経過し、施設設備の故障が増えている。空調設備については、夏や冬のフル稼働時に故障してしまい、業者手配と並行し、夏は扇風機、冷風機、西側居室にはエアコンを設置し、冬はストーブやブルーヒーターを集めて職員が協力しながら対応した。利用者には不快で、不便な思いをさせてしまった期間があった。今年度は建物、空調設備、給湯器、厨房器具等で修繕や入れ替えを優先順位をつけながら適宜実施している。利用者には居心地が良いと思っていただく為には職員の対応が適切である必要がある。職員研修で、不適切ケアや権利擁護について学んだり、今年度いただいた意見や苦情は報告書を回覧して周知を図り、各セッションでの会議や委員会等で検討策検討したりして、不適切ケアが無くなるように努めた。	◆施設設備での不具合、12/31 の夜に不快な音を聞いた。禁猟区なのに 1 月狩猟を行っていたので、交番に連絡をした。設備点検をしっかりと行ってください。◆異常気象が多くなってきている昨今、空調設備が大事になると思います。設備点検をこれまで以上にしてほしいと思います。◆笛吹の里通信を毎回読んでいるが利用者に対して介護職員が常に優しく温かく接している様子があらわれている。対人間では時としては腹が立ったり、これはどうかと思うこともあったりすると思うが、今のような利用者サイドに立った介護を継続していってもらいたい。	業者点検のみに頼らず、日常的に設備確認を実施することで、異常の早期発見・対応ができるよう努める。
C. 事業所と地域のかかわり	「笛吹の里」が「活用できる地域資源の一つ」として地域から認知していただけるよう、地域との関わりを更に深める。	7 月に開催した納涼祭イベントには、施設利用者・その家族以外に多くの地域住民から参加いただいた。小学校児童からマーチング演奏をしていただくことが恒例となっており、お子さん連れの参加が増えている。その他イベントにも近隣に案内文書を配布し地域住民から参加いただいた。災害発生時は一時的な避難所として地域住民の受け入れや高齢者以外の方にも施設機能や設備を活用した支援の可能性について、運営推進会議で説明し、笛吹の里が活用できることを周知したが、広く地域から認知されたわけではない為、今後も引き続き取り組む必要があると考えている。職員が付き添い、散歩やドライブ、買物や外食と一緒に出かけたり、小学校や保育園の行事、地域イベント(例えば、上越まつり民謡流し等)に利用者とともに楽しく参加している。	◆納涼祭イベントは毎年参加者が多くビックリしている。これからも地域住民とのかかわりや受け入れをお願いします。◆イベントが地域の楽しみになっている。◆事業所評価項目 6.連携・協働との関係があるので、今回の取り組みでできている点の内容は評価すべきものだと思う。	地域の行事やイベントなどの情報を得て、参加ができるように調整を図る。地域との関係がより良好なものとなるように努める。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>家族をはじめ、地域からの協力を得ながら、利用者の意向に沿った「暮らし」の実現を目指す。</p>	<p>離設リスクのある利用者に対応する為、10月から玄関自動ドアの開閉に制限を設けた。来設者には、ドアホンを鳴らしていただき、職員が操作してドアを開ける対応を実施。内側からは今まで通りのボタン操作で出られるが、ボタン位置を高くしたことで当該利用者が一人で外出してしまうことがなくなった。ただし閉じ込めるわけではなく、職員が付き添い散歩やドライブ、買物と一緒に出かけたり、小学校や保育園の行事、地域イベント、例えば、上越まつり民謡流しに参加する等して、適宜、利用者の気分転換に努めた。宿泊利用を継続している利用者が一晩でも数時間でも家族と過ごす時間を作ってもらえるよう、その家族に働きかけ、頻度は少ないが実現することができた。在宅生活の継続を希望する利用者には、近隣住民にも協力を仰ぎながら、訪問サービスを提供し、訪問の延べ利用件数は4月362件から1月は537件に増加した。</p>	<p>◆自動ドアの制限は仕方がなく、良いと思う。職員の付添で外出等により利用者がリラックスできる。◆市や地域のイベントに多く参加してほしいです。◆要介護状態の利用者が介護職員のサポートなしに地域の行事やイベントに参加するのは無理だと思う。サポートを受けながら参加されていることが何件かあったので良いことと思うが、本人が望んでいない場合も結構あるのではないかと思う。◆小規模多機能型居宅介護を実践されている。これをやられていなければ自宅で暮らすことができない方が何人も自宅で生活されているのを見受ける。</p>	<p>家族や近隣住民から、理解と協力をいただきながら、利用者自身が望む場所での暮らしの実現を目指します。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>地域課題への取り組みや地域の福祉・介護力の向上に寄与できるような会議運営を目指す。</p>	<p>今年度第1回の会議において、運営推進会議で話し合う議題についての意見交換を行った。また、各回での報告事項から話題が掘り下げられ、大規模災害発生時の一時避難所として近隣住民受け入れ態勢や福祉避難所開設について。夏季に地域をまわり熱中症予防の啓発を行ったこと。空き家問題。野焼き問題。利用者からのセクハラ事例。認知症にかかる基礎知識、施設のあり方やこれからの地域介護について等の情報提供、意見交換が行われた。また、施設からの報告事項においても、それぞれの立場から意見をいただき、これからの施設運営を考える為のヒントをいただくことができたと考えている。</p>	<p>◆災害時、遠方の避難所に行くことができない避難者を一時的に避難できる体制をとっていただけることで地域として安心してしている。◆大規模災害時に一時避難所として近隣を受け入れ態勢がとっていただけることで、住民は安心安全に生活ができると思います。◆近所の野焼き問題解決は進まない。◆これからも福祉・介護のことについて話していきたいと思います。◆運営推進会議は年6回あるので、笛吹の里として行えばよいというのではなく、施設として、あるいは介護職員の立場として話し合うべきテーマを出してほしい。職員が足りているのか、若い人の指導で困っている点や利用者の問題点等話し合っても仕方がないと思わないで、共有化にしかならなくてもよいから、もっと「テーマ」を出してほしい。</p>	<p>施設の現状や地域課題を共有し、地域福祉の向上に資する会議運営を目指します。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>自衛消防訓練を年3回実施する。防災委員会が中心となって、非常時でも行動できるように、日頃から職員の防災意識を高める。</p>	<p>防災委員会は、防火管理者が長を勤め、各セクションから1名ずつ職員選出し計8名の委員で構成されている。また、委員は1年交代である。訓練は防災委員を中心に実施され、時間をかけながら職員全体の防災意識向上に努めた。少ない職員で効率よく動けるようにする為、警報発報時の行動の見直しや深夜時間帯の役割分担をあらかじめ決めておく等、訓練毎に検討を重ね改善を図ってきた。これまでは全館放送や直接伝達での連絡方法で状況把握を行っていたが、今年度からはトランシーバーを導入し、これを用いた連絡方法に変更、より効率よく初期対応ができるように訓練を実施した。第2回では、消防署に協力いただき、駆けつけた消防署員への情報伝達の仕方、実際の救助、救助後の利用者フォローについての確認、意見交換をし、今まで行っていた訓練のその後の対応についても確認することができた。また、地域の方からも参加いただき、貴重な意見をいただくことができた。今後も訓練毎に評価し改善を図りつつ、他災害への対応についても委員会で適宜検討していく。</p>	<p>◆年3回の訓練の対応は良い。◆防災訓練ごとに改善点があり、それを見直して次につなげていることはいいことだと思います。◆菟野、池、辰尾各町内としては、大災害が起こった時に避難できる場所として最も頼りになると思う。収容人員には限りがあるが、何人くらいまで避難できるか。短期的、または中期的なことも含めて、検討を重ねていただきたい。◆大規模災害発生時に一時避難所として近隣を受け入れ態勢となることで住民は安心安全で生活できると思います。</p>	<p>地域の意見も取り入れながら、防災委員会が中心となって、防災・災害対策の見直しを図ります。</p>